

2026年2月21日

**2026年度**  
**城西大学大学院経営学研究科**  
**第二次入学試験問題**  
**小論文及び基礎学力検査（90分）**

**注意事項**

1. 試験開始の合図があるまで、この問題を開かないでください。
2. 問題冊子は本紙を含めて3枚、解答用紙は3枚です。ページの脱落等に気づいた場合には、手を挙げて監督者に知らせてください。  
問題・解答用紙の汚れ等に気づいた場合にも、同様に知らせてください。
3. 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
4. 監督者の指示にしたがって、解答用紙の1枚目に受験番号・氏名を記入してください。
5. 解答にあたっては、電卓や携帯電話などの電子機器は使用しないでください。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

2025 経営学研究科

問題 I 次の文章のカッコ内にあてはまる最も適当と思われるものを、下の枠内の用語から1つ選んで、その番号を解答欄に記入しなさい。(20点)

- ( A )とは、社会課題を解決することを目的として設立される。企業は営利を求めて活動するが、公益を増進するために営利を目的としてない ( B ) の活動が注目されている。
- ( C )とは、企業統治や意思決定の仕組みである。この仕組みにおいて、( D ) に対して ( E ) を通じた ( F ) が求められるようになった。
- 日本の公的年金は、雇用主と従業員で ( G ) を ( H ) する。
- ESG 投資の E は ( I )、S は ( J )、G は企業統治である。
- ( K ) とは、複数の国に子会社や系列企業を置き、利潤最大化するように活動する企業である。
- ( L ) とは、コースとウィリアムソンによって提唱された理論である。
- ( M ) とは、従来存在しなかったまったく新しい市場を生み出すことで、新領域に事業を展開していく戦略である。
- 2015 年に国連サミットで採択された ( N ) の達成に向けて経営方針に取り入れる企業も出ている。
- ( O ) は野中郁次郎によって提唱された理論で、個人が持つ暗黙知を組織全体で共有し、形式知に転換することを目的とする。
- ( P ) はポーターによって提唱された理論である。そのフレームワークとし ( Q ) が使われる。
- ( R ) とは、環境の変化に合わせて保有するリソースを組み替え、適応するように自己変革していく能力のことを意味する。
- ( S ) は ( T ) を取り込み組織内外のモラルハザード問題とその解消法を説明している。

#### 用語

1. 社会保険料 2. 情報の非対称性 3. 寄付金控除 4. ソーシャル・ビジネス
5. SECI モデル 6. ダイナミック・ケイパビリティ 7. サブスクリプション (定額制サービス)
8. 社会 9. ケインズ理論 10. 保護主義 11. ブルー・オーシャン戦略 12. 情報開示
13. NPO 14. ファイブフォース 15. コミュニティビジネス 16. 説明責任 17. 折半
18. 取引費用理論 19. コーポレート・ガバナンス 20. SWOT 分析 21. 環境
22. レッド・オーシャン戦略 23. 多国籍企業 24. オーディナリー・ケイパビリティ
25. ステークホルダー 26. ベンチャーキャピタル 27. SCP 28. 参入障壁
29. エージェンシー理論 30. SDGs(持続可能な開発目標)

問題Ⅱ 以下の設問のうちどちらか一つを選び、解答しなさい。なお、どちらの設問を選んだか解答欄に番号を必ず明記をすること。(30点)

設問1 「組織は戦略に従う」というチャンドラーの一般化について論ぜよ。

設問2 企業経営における「合理性」と「人間性」について論ぜよ。

問題Ⅲ あなたの希望する研究テーマについて、具体的な事例などに関連付けて、300字程度で論じなさい。(50点)